

「2010年度新カリキュラムについてーその2 入門について」が 開催されました

実施報告

日時: 2009年7月27日(月)17:00～18:10

場所: 湘南キャンパス 8号館3階 チャレンジセンター会議室

司会: 岡田 工(チャレンジセンター准教授)

- 内容:**
1. 2010年度新シラバス 集い、挑み、成し遂げ力(入門)と(演習A)、(演習B)の分類について
(岡田工 チャレンジセンター准教授)
 2. 旧カリキュラム「集い力／挑み力／成し遂げ力I」と新カリキュラム「集い力／挑み力／成し遂げ力(入門)」について(尾崎由佳 チャレンジセンター講師)
 3. 質疑



1. 2010年度新シラバス 集い、挑み、成し遂げ力(入門)と(演習A)、(演習B)の分類について

岡田 工(チャレンジセンター准教授)

2010年度のカリキュラム改訂にあたり、チャレンジセンターが開講する「集い力I・挑み力I・挑み力II」は「集い力(入門)、挑み力(入門)、成し遂げ力(入門)」へ、「集い力II・挑み力II・成し遂げ力II」及び「集い力III・挑み力III・成し遂げ力III」は、「集い力(演習A/B)・挑み力(演習A/B)・成し遂げ力(演習A/B)」へと改訂される。これらの改訂は、科目の位置づけを明瞭にし、履修者にとって授業内容を分かり易く提示することを目的としている。



2. 旧カリキュラム「集い力／挑み力／成し遂げ力I」と 新カリキュラム「集い力／挑み力／成し遂げ力(入門)」について

尾崎由佳(チャレンジセンター講師)

1) 現カリキュラムの授業「集い力I・挑み力I・成し遂げ力I」の 特徴と成果

【授業目的と内容】

大学生活および卒業後の社会人生活において活用できる、実践的なスキルを育てることを目的とし、多様な学生を幅広く受け入れることが特徴。授業は、基本的に「講義」と「演習」のコンビネーションによって進められる。講義では、社会的実践力に関する理論的背景を理解し、演習では、講義で学んだことを教室内のワークで体験する。講義や演習で学んだことについて再確認するために、「何を学んだか、何を考えたか、何を感じたか」についてグループで話し合ったり、毎授業後に「ふりかえりシート」に考察を記入したりする時間を設ける。

ただし、実践的スキルのレベルはレポートやテストでは測れない上、初期値が異なっていることから、スキルをみながく過程を重視し、「ふりかえりシート」においてどれだけ省察を深められているかを中心とした成績評価を行っている。



【成果と課題】

履修者を対象としたアンケートの結果から、集い力・挑み力・成し遂げ力の自己評価が受講によって向上したことが明らかになった。また、演習を多用することによって、学生の参加意欲が高まったことが分かる。ただし、グループワークの場合、履修者によって参加意欲に差が生じたり、履修者数が多いと教員による十分な指導が難しくなることがあるため、多くの履修希望者をどのようにして受け入れていくかが課題である。

2) 新カリキュラムの授業「集い力(入門)・挑み力(入門)・成し遂げ力(入門)」の構築に向けて

【授業目的と内容】

入門の授業は「基礎知識の充実」を目的とし、幅広く履修者を受け入れることを目的としたい。そのため、基礎知識を体系的に教えるための教材開発が望まれる。そして、大人数でも実施可能な演習形式の授業方法を導入することが必要である。また、実践例の紹介を増やしたり、チャレンジセンタープロジェクトや企業の取り組みなどの実例やロールモデルの紹介をしていきたい。

【今後の課題】

講義中心の授業でどのようにして実践力をつけるかを工夫する必要がある。過去の経験とつなげて考えるために、自分がこれまでに経験してきたことの中から関連する事例を考えることが効果的である。将来の実践につなげるために、「いつ、いかなる場面で、どのようにして実践するか」を具体的に考える機会を設けることが必要になる。

3. 質疑応答

Q オムニバス授業は意義のある取り組みだったと思うが、なぜ廃止されるのか？

A 「集い力Ⅲ・挑み力Ⅲ・成し遂げ力Ⅲ」という3科目がオムニバス授業として設置されていたが、授業運営上、各回の講師を確保することが困難であり、毎学期1科目ずつしか開講できない状態であった。このような事情から改訂を行ったが、新カリキュラムでは、各授業の目的・内容に応じて、適宜、ゲスト講師のような形で学部・センター等の先生方に授業に参加していただく機会を設けられればと考えている。